

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2005年2月28日

53号

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

障害者の声・表情を届けて写真展終る



厳しさを増す福祉の状況の中で

まだ明るい春のイメージとは遠いのですが、今年度も残り少なくなりました。

先日の、「重度障害者の生活と支える人たち」と題した写真展では、あまり多くの方たちに知られることの少ない重度障害者や、また一生懸命かかわっている多くのボランティアさんやスタッフの人たちのさわやかで明るい表情を伝えることを主な目的としました。また、10枚のパネルでは、日常のいろいろな場面を紹介し「どんなに重い障害があっても、適切な援助があれば、地域の中で生き生きと暮らせる」ことを理解していただけたかとおもいます。

同時に、「たわわ」の増刊号（50ページ）を発行し、障害者自身の声の特集して、来てくださった方に配布しました。これまで「たわわ」に掲載された記事の抜粋のほかに、支える会の紹介や、筋ジストロフィーの画家大塚さんへのインタビュー、グループホームの紹介などを主な内容としています。

「ギャラリーかれん」での写真展は、今年で3回目の催しですが、これから続く重度障害者たちにひとつの暮らし方の提案が出来たかと思えますし、多くの地域の方たちに障害者自身の声をお伝えできたのは良かったといっていたいております。

一方ならぬお世話になった「アートかれん」の皆様はじめ、多くのお励ましを頂いた方々に心より感謝いたします。

* * *

さて、来年度を前に、障害者自立支援法をめぐる福祉の現場は大きく揺れています。新しい”改革は”6月ごろまでに国会を通し、秋には、公費負担医療の見直しが始まり、新制度の申請が始まる。18年1月頃から新支給決定手続きの受付が始まるかという急ピッチですすめられそうな気配です。

これにより利用者負担金も見直され、現在の応能負担が、利用料の1割り負担になり、今はない扶養義務者にも支払い義務を持たそうという計画。上限はあるとはいってもこのままでは重度障害者にとっては、これまでの自立を目指す福祉に逆行するものです。

負担金だけでなく、問題の多い新しいシステムをきちんと理解し、多くの人と連携し出来る限りの声を届ける努力をしなければならないと思うのですが... ご意見をおよせください。



吾が身をつねって、人の痛さを知れ

新吉田地区社会福祉協議会会長 石井正雄

私は一昨年十二月一日の未明、自宅の縁側で転び手足の指先にしびれが出て、その解消のため、約六ヶ月入院してリハビリに専念し退院しましたが、最初は自宅の少しの段差でも越えるのに大変苦勞を致しました。

最近はその悩みは解消し、杖一本にて、近くの堤防の歩道を一日約五千歩を目標に歩く運動をしております。唯この歩行中、後から来た小学生の方々にも追い越される事があり、涙をこらえての歩行に挑戦中です。

しかしこの歩行中、途中で靴が脱げそうになったり、よろけそうになった時、通りすがりの女性の方々が、すぐ手を貸して下さり、そのご厚情に感謝している昨今です。

どうか今、健康であられる皆様、今後、体の障害や不自由な方に会われたら、少しでも優しい励ましの言葉など、かけてあげて下さい。それが、障害を持つ方への、自立の一步になる力を与えられますので。

重度障害者と支える人たち写真展を終えて



竹生 真喜子

「重度障害者と支える人たち写真展」にはご多忙の中ご来場いただきまして、ありがとうございます。

のびのびとした日々をプロ級カメラマン？大原さんが見事にとらえました。

いつも何を思っているのでしょうか... そんな心の声が聞こえてくるようなメンバーの生き生きとした表情。韓流スター顔負けの「微笑みの貴公子・淑女たち」をごらん頂けたでしょうか？ いつまでも変わらない瞳の輝は、みんながピュアな心の持ち主だからなののでしょうか。

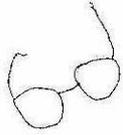
時に会場は、交流の場となり話の花が咲きました。

これまでも懐かしんで涙ぐむボランティアさん。養護学校時代の恩師と感激の再会。はるばる訪ねてくれた旧友との楽しいおしゃべり。暖かさに包まれた1週間でした。

多くの方々の力を頂いて今日までこられたことに感謝！感謝！です。

そしてこれからもみんなが、ずっとずっと幸せに過ごせますように。

最後に、ご寄付や、手作り品のお買い上げ、その他ご協力を頂いた皆様に心より御礼申し上げます。



めがねのこえ

たまに母と私とで 町に買い物に行きます。寒いときには 八百屋さんで焼き芋を買って ひざに乗せて歩きます。カイロの代わりです。

いろいろなお店屋さんの人が私を覚えていてくださって 声をかけてくれます。「元気ですか」とか 「久しぶりね」とか... この前も「大きくなったね」といって声をかけられました。

この前 小さいときからあったお店が閉店するのでいってみました。ときどき買い物もした店なので なくなるのは寂しいな と思いました。

いまは、ずいぶん大きな店やスーパーが出来ました。皆 ぐらしやすくなったと思うでしょうが 私は「ふれあいがないな」とおもいます。カゴに物を入れて 並んで だまってレジでお金を払うだけです。

町を歩くと 店のおいや パンの焼けるにおいや コーヒー屋さんのにおいや、いろいろな町のおいがまじり合って、なんとなく暖かいきもちになります。なんだかホッとします。

車イスで電車に乗って通うときに、私が小さいときから「バナナやさん」と呼んでいるおばさんは 駅の改札口のそばで 果物を売りながら、私の肩をたたいて『行ってらっしゃい！気をつけてね。元気にかえってきてね』と 心配そうに手を振って ずっとみていてくれます。ちょっとうれしいし 気持ちが温かくなります。

そのお店も コンビニに変わったりして 少し残念ですが、これからも町を歩こうとおもいます。

大原 友子

地域交流バザーのお知らせ

日時： 3 月 19 日 (土) 10時30分 ~ 2時

場所：グループホーム 「よつばホーム」

港北区新吉田町 5623 (九州石油裏隣り) TEL 045-591-7040

内容：雑貨、衣類など提供品や手づくり食品の販売。ミニ喫茶。

お誘い合わせてお出かけください。

*尚 不要な品物があればご提供ください。ご連絡いただければ、いただきに参ります。

* * *

ご入会・ご継続ありがとうございます。

《賛助会員》 (敬称略)

佐々木 幸子 平成17年2月28日現在



今月のよつばホーム

よつばホーム

朝の8時15分

NHK派の人にはお馴染み朝の連続ドラマが始まる時間です。

よつばも朝はNHKをつけているので、連ドラの音楽が流れると「もうこんな時間か」と思います。

この時間が気になってしょうがないのが花岡佐千江さん。

ちょうど朝食も食べ終わり歯磨きをしようかという時間です。連ドラの音楽が聞えるとはほぼ同時に、「どうなるんだろう、一緒になるのかなあ」と楽しそうに言ってくれます。「一緒になる」とは主人公が結婚するとかそのような意味だと思えます。「一緒になるのかなあ、せつちゃん、一緒になるのかなあ」。毎朝言ってくれるので、まわりもこれを聞くのを楽しみにしています。

ドラマが始まるとそんなに熱心に見ているわけでもないのに、ただ8時15分になる瞬間が大好きなんでしょう。

これを聞くとみんな「今日も花岡さんは元気だな」と安心します。

第2よつばホーム

今月は夜間の様子をお伝えします。

障害の重い入居者のみんなは、夜間に用事（トイレ・寝返り・発作・眠れない…等）があってもそれをスタッフに伝えることができません。

夜間どのような体制をとっているかという点、

阿部 健市さん—スタッフが同室で就寝（発作・明け方のトイレへの対応）

大原 友子さん—スタッフが同室で就寝（寝返りの対応）

富岡 章子さん—スタッフが同室で就寝（発作・体勢の乱れ等対応）

山田 宏さん—居室にて一人で就寝（モニターにて音・映像を確認）



上記のような体制で夜間援助を行っています。第2よつばの入居者は、これまでのグループホーム入居者では考えられない位障害が重い同室やモニターといった形で対応しています。

山田 宏さんを知っている方は一人で寝ているなんて、驚くかもしれませんね。

宏さんは環境の変化や物音、明かりにとっても敏感で、スタッフが同じ布団に入り体をおさえる形の添い寝でないと眠ることが出来ませんでしたから。

宏さんにとって、第2よつばホームも自分の家だと感じてくれた証拠だと思っています。